

福島第二原子力発電所からのお知らせ（2017年3月号）

1～4号機は、燃料の安定冷却を継続しています。発電所の最新状況や、さまざまな取り組みをお知らせします。

発電所のさらなる安全性向上に向けて、全力で取り組んでまいります

- 当社原子力発電所の事故から6年が経過しました。今なお、福島県の皆さま、そして広く社会の皆さまに、大変なご迷惑とご心配をおかけしておりますことを、あらためて心よりお詫び申し上げます。
- 当所では、事故以降「あのような事故を二度と起こさない」という強い決意のもと、津波で影響を受けた設備の本設復旧を行うとともに、電源強化などの安全性向上、そして緊急時にも対応できる組織や人づくりに、協力企業の皆さまと一体となって取り組んでまいりました。
- 昨日よりも今日、今日よりも明日の「安全レベル」を高める取り組みを、引き続き、全力で進めてまいります。



津波による浸水対策



教訓

海側の建屋内へ津波が浸入し、燃料の冷却に必要な設備（電源盤や海水ポンプ等）が水をかぶって使用できなくなりました。



対策

防潮堤（仮設）の設置や、建屋の扉の水密化などをはかっています。また、防潮堤の本設化に向けて検討を進めています。



防潮堤（仮設：海拔15.4m）



注水手段の強化



教訓

福島第一の事故では、電源を失ったことで原子炉に注水する設備が使用できなくなりました。



対策

電源喪失などの有事の際には、燃料を保管している使用済燃料プールへ注水できるよう、消防車6台を高台等に配備しています。



消防車



電源の強化



教訓

福島第一の事故では、地震や津波の影響でほぼ全ての電源が使えなくなり、原子炉への注水、原子炉の状態を監視するなどの安全上重要な機能を失ってしまいました。



対策

外部電源の予備として非常用ディーゼル発電機（1プラントあたり3台：合計12台）を設置していますが、震災以降、新たに可搬型の予備電源としてガスタービン発電機2セット、電源車11台を高台等に配備しています。



ガスタービン発電機車



電源車



直営技術力の向上



教訓

津波により構内に散乱したガレキの撤去など、復旧作業は、協力企業の方々のご協力なくして進めることはできませんでした。



対策

有事には、社員のみで迅速な初期対応ができるよう、電源車を使った電源確保やガレキ撤去の重機操作、電動機取り替え、ポンプ復旧、ケーブル接続などの訓練を繰り返し行い、社員の技術力の向上を図っています。



電源車へのケーブル接続



重機の操作訓練

みなさまのご質問におこたえします

Q. また、大きな地震や津波が来たら、発電所にある燃料は大丈夫なのか、心配です。

A. 燃料が保管されている使用済燃料プール※1については、震災後に策定された国の新しい規制基準に照らした地震・津波※2に対しても、健全性が維持されると評価しています。

※1 原子炉にあった燃料は、2015年3月までにすべて使用済燃料プールへ移動しています。

※2 福島第二原子力発電所の場合、地震動（水平最大900ガル）、津波（海拔27.5m）
【発生確率：1万年～100万年に1回】

また、使用済燃料プールへ注水する設備が被害を受けるような事態への備えとして、消防車などによる注水で燃料の健全性が確保できるよう手順を定め、訓練を重ねています。



回答したのは

福島第二原子力発電所
広報部
リスクコミュニケーター

大越 吉弥（榎葉町在）



ご質問、ご意見をお寄せください

（平日）午前9時～午後5時 電話 0240-25-1353
福島第二原子力発電所 企画広報グループ

■編集後記

榎葉町の天神岬スポーツ公園にある手作りジェラート店「ウィンディーランド」さんに、リニューアルオープンの3月10日、さっそく立ち寄ってきました。「パネラ」と「さくら」のジェラートダブルで口の中はひんやり、大満足(^_^)。14種類もあるんですよ。

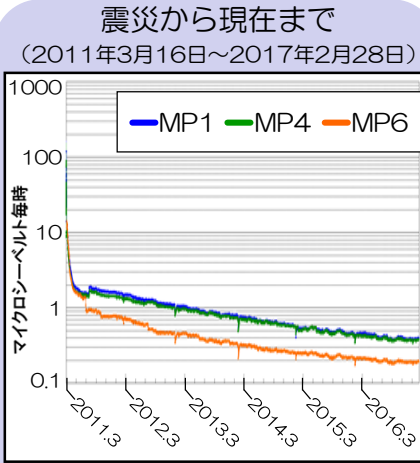
皆さんも、春の天神岬、温泉ついでにジェラートはいかがですか。【K】



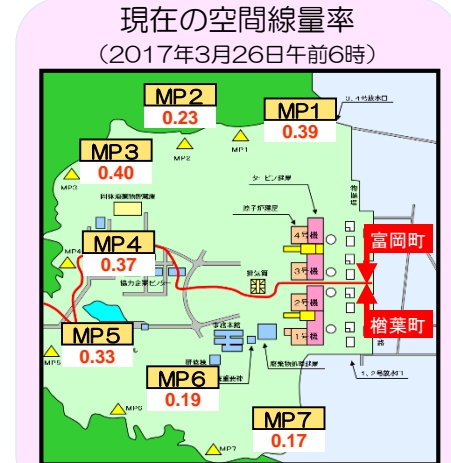
福島復興への責任を果たすために、福島第二原子力発電所は引き続き燃料の安定冷却を継続してまいります。

発電所敷地境界付近に設置している全7基のモニタリングポスト（MP）により、常時、空気中の放射線量の測定を行っています。

発電所周辺の空間線量率



値は震災後、現在に至るまで低下傾向



単位は、マイクロシーベルト毎時

参考 原子力規制委員会 放射線モニタリング情報より
(2017年3月26日午前6時)

富岡町文化交流センター：0.198マイクロシーベルト毎時
(富岡町役場敷地内)
榎葉町役場：0.088マイクロシーベルト毎時

燃料の保管と冷却状況

- 燃料はすべて、1～4号機の使用済燃料プールで保管しています。
- プール水温度は上限の65℃に達しないよう、約30℃で管理し、常に監視しています。
- 冷却が停止した場合、65℃に達するまで5～7日と評価しています。

	1号機	2号機	3号機	4号機
保管している燃料の数	2,534体	2,482体	2,544体	2,516体
65℃までの到達時間 *3月1日現在の評価	124時間 (約5日)	183時間 (約7日)	184時間 (約7日)	191時間 (約7日)

使用済燃料プール水温度やモニタリングポストのこれまでの計測状況については、当発電所ホームページをご覧ください。

★ ホームページURL ★
<http://www.tepco.co.jp/nu/f2-np/index-j.html>



【お問い合わせ】福島第二原子力発電所 企画広報グループ
tel 0240-25-1353 受付時間(平日)午前9時～午後5時